

ふくしま

再生 短信

2021/11/13-14 栃木県立大田原高等学校飯館村研修同行記

村で学ぶ & 村に学ぶ

栃

木県立大田原
高等学校の2
021年度飯
館村研修は十一月
十三日、十四日の
両日ぬける快晴の
下で行われた(写真
1、研修終え酒米田圃
で)。引率は植木淳
校長、加藤信行教
諭、藤原和人教諭。

十三日午後一時、飯館
村佐須滑のふくしま再生
の会事務所前で開会式。
今回はスーパースサイエン
ス部の高校生十一名のほ
か、研修補助



も兼ね東大生
四名も参加。
研修三年目に

あたり大田原高校からこ
れまで研修を支えてきた
菅野宗夫さんら村のみな
さん、田尾陽一さんら再
生の会のメンバーに感謝
状が贈られた。誠に名誉
であり有難いことである
(写真2)。



最初の取
組は菅野永
徳農園の大
根掘り、持
参した野菜も含
む放射能測定用
である。手ほどきは無論
永徳さん(写真3、円内は永
徳さん)。



大根掘りの
後、三班に分
かれ、(1)〜(3)に各
班交代で取組
む。(1)再生の
会・小原壮二
さんの指導で
作物の放射能
測定



二さんの指導で作
物の放射能測定
(写真4)。(2)大田
原高校の先輩・東
大大学院農学
生命科学研究所
教授・溝口
勝さんの指導
で埋設土壌の
放射能測定



(写真5)。(3)再生の会・
佐野隆章さんの指導で森
の中の最大放射線探索
ゲーム(写真6)。



三種の測定研修の後、
田尾さんの案内で炭焼
き窯予定地と風と土の家
を見学、全員元気いっ
ぱい川俣町の宿舎「小島
ふるさと交流館」に移動。
夕食後「ドロえもん放
射線クイズ大会」へ。同
宿の大学生チームを
圧倒、高校生が優勝し
原作者の溝口教授の祝
福を受ける(写真7)。

二日目朝八
時出発、帰還
困難地区を隔
てる長泥ゲー



トの説明を受け
る。続いて菅野
啓一農園へ。啓
一さん「天明の
飢饉を生き延びた先祖への責任、子孫への責任もある。だから居久根の除染を重機で自力で実施」(写真8、居久根前、円内が啓一さん)。福島第一原発側に面した森で最大放射線

量探索ゲームを展開。
山田牧場内の松塚土
壌博物館(写真9)見学後、
「新農家」挑戦中の山田
豊牧場へ、幼い子牛2頭
が人気者に(写真10、円内
は豊さん)。コメリ跡地で最
先端の田舎の創造に取り
組み若き移住者、合同会
社MARBLING(マーブリン)
CEO松本奈々さんと松尾
洋輝さん(写真11)と交流。



グCEO松本
奈々さんと松尾
洋輝さん(写真
11)

「1」と交流。
るびす庵で美味
しいうどんをい
ただき宗夫さんのハウスの
「振り返りと討論」会
場に移動(写真12、円内宗
夫さん)。宗夫さん講義
「次世代農業に挑戦中
です」生徒「放射線につ
いて学んだ。自分も関
与する研究に生かしたい」生徒
「地域の内部から学べ
た」生徒「これまで知ら
なかったことを学んだ」
生徒「昨年参加、活躍
する若者が増えた、長泥
ゲートを始め今年は飯館
村についての研究をま
めたい」生徒「シイタケ
はどうなのか？」溝口さ
ん「まだまだ調べる必要
あり」宗夫さん「若い人
から元気をいただいてい
る」大学生「将来は？」
宗夫さん「日本の未来が
ここにある」田尾さん
「事実を元に考えて、思
考停止しないで」。

加藤先生「今年で三年
目、この経験
は将来に必ず
繋がると思
い二日間の学
びを忘れない
で」。

(文責&撮影・
若林一平)



ふくしま

再生 短信

2022/1/16～17 「星空観測小屋」 建設現場同行記

学びは宇宙へ

星

空チームのサムライたちが酷寒の最中で黙々と星空観測小屋の建設作業を進めている(写真1)。現場は風と土の家の南側、学び舎の西側。

2022年1月16、17の両日、星空チームこと「星空観測小屋建設チーム」(チームリーダー・内田理さん)の観測小屋建設作業に同行、内田さんから今日に至る経緯を伺った。観測小屋は全体を覆う屋根が車輪



5

固定のために試行錯誤を繰り返す難工事。1991年来東北大学の惑星圏観測所が震災の苦難を超え大型電波望遠鏡で惑星観測、太陽電波の連続観測も実施してきた。村からは東北大に共感した前田地区の佐藤俊雄さんが口径二十センチの反射望遠鏡を導入

富田きよむさん(写真3)

で移動する構造(写真2)、まさに「小天文台」の風格。屋根の移動は高い精度を求められ、サムライたちが骨組み



1

3

2



4

が震災後中断し望遠鏡は村役場に保管。建設中の観測小屋はこの反射望遠鏡を引き継ぎ観察再開となった。

チームは内田さんをリーダーに大永貴規さんと小林伸

吉さんを加え2021年4月25日三人

で発足。続いて二宮克彦

さん、徳田

勝八さん、

そして内田

さんの畏友

の報道写真

家・

富田きよむ

さん(写真3)



7

ならびに星空案内人資格保持者・原口利雄さん(写真5)を加え今日の七人のサムライが誕生。菅野永徳さんは一貫してチームを支えてくれ、小屋建設の基本的助言始め、ショベルカーでの整地作業や自動カンナの提供にも大いに助けられた。今宵は煌々たる月明かりが現場を照らし(写真5)、翌朝は大きな真紅の太陽が骨組みに輝いた(写真6)。三月中に完工し完成イベントを予定。星空案内人・原口さん「子どもたちを中心に広く宇宙に興味を持つきっかけの拠点になってくれることを願っています」。

完成した骨組みの前に立ち遙かそらを見上げる内田さん(写真7)。

星空観測小屋の建設は、地球環境基金から助成を受けて進められています。

(文責&撮影・若林一平)



6

ふくしま

再生 短信

2022/3/26~27 里山再生活動体験同行記

あぶロマ宇宙ツアーへ発進!

2022年3月

26日と27日

の両日「里山活

動体験ワーク

ショップin飯

館」(総合コディ

ネーター・小原壮二さ

ん)が開催された。今

号から三回にわたり同行

記をお伝えする。

ワークショップは福島

大学農林サークルと東大

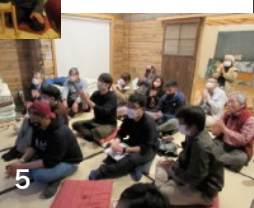
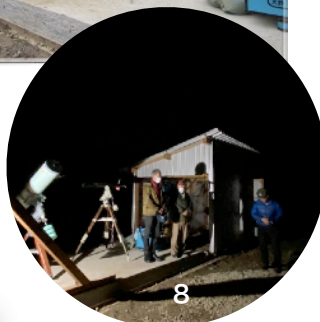
むら塾の学生のみなさん

の参加を得、村の方々

(福島県森林組合認定基

幹林業作業士・佐須老人

クラブ)・飯館森林組合



あと小原さんの里山再生

計画の話に続き完成した

星空観測小屋の

お披露目を兼ね

た「星空鑑賞

会」が

開かれ

た。観

測小

屋は

屋根を

移動し

て星空

を仰ぐ本

格構造(写真1、

3)。観測小屋のエンブレ



ムに『あぶ

ロマ星

空観測

基地』

の刻印

あり(写

真4)。村と県

のみな

の囲み記事参照)。鑑賞会

はあいにくの雨模様、学

生のほか村のみなさん、

再生の会の参加者は急遽

「学

び舎

移動

し星

空案

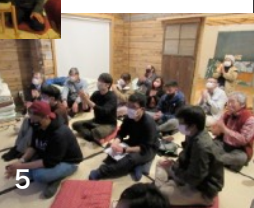
人・

内

空

星

の



オリオン座馬

頭星雲) 星

空観測の

先駆・種

「われら

星空同好

会」のみなさんは翌27

日晴れ渡る星空を楽しん

だ(写真8)。(文責&撮影・若

林一平、写真8は田尾陽一さん)

ワンポイントインフォメーション

；望遠鏡と観測小屋の建設について

ふくしま再生の会理事長 田尾陽一

設置された望遠鏡二台は、「われら星

空同好会」の方々、前田の佐藤地区長と

草野の佐藤俊雄さん、きこりの佐藤峯夫

さん、が「活用してくれ」と風と土の家
にお持ちになったものです。
また、あぶくまロマンチック街道協
会の方々と福島県相双事務所が、望遠鏡
の整備修理費用と、一台の小型望遠鏡を
提供して下さいました。
小屋の建設には、佐須の高橋利明さんの
亡きお父様が残されたイグネの木材を使
用させて頂きました。
星空観測小屋の建設は、地球環境基金
の助成を受けて建設されました。

ふくしま

再生 短信

2022/3/26~27 里山再生活動体験同行記 第2回

循環と共生への道を歩く

場。東京からの遠隔ロボット操作に見事成功

(写真7)、しか

し溝口さん「ス

論文の講義を受け、滑牧場ブドウ畑隣接の堆肥製造現場へ(写真5)。堆肥を前に内山さんの説明は説

ど納得。午前のワークショップ終え昼食の待つ風と土の家へ。

(文責&撮影・若林二平)



前号で紹介した星空鑑賞会から明けて2022年3月27日8時、総合コーダイネーター・小原壮二さんの講義に続いて里山ハイキングに出発、今日から福島大学農林サークル五名合流。

最初の訪問地は「萌芽と植樹による放射能低減実験エリア」まずクリ苗木四本からのスタート(写真1)。

現場は続く、屋根掛けのある炭焼き窯である(写真2)。昨年来地

域の古老・経験者中心で作

生、再生の会

が協働し完成した窯は3月16日夜に発生したマグニチュード7・4の福島県沖地震の際に崩落、しかし残った窯の奥に「炭」そのものを確認、試練を超える希望を垣間見た(写真3)。

炭焼き窯を後にした一行は丘を越え水田用水路の脇を抜けて

学び舎へ(写真4)。十時、東大大学院・内山健太郎さんから「完熟堆肥製造」に関する研究

得力がある(写真6)。

ここで東大大学院溝口勝教授が草刈りロボットを連れて登

場。東京からの遠隔ロボット操作に見事成功

(写真7)、しか

し溝口さん「ス

論文の講義を受け、滑牧場ブドウ畑隣接の堆肥製造現場へ(写真5)。堆肥を前に内山さんの説明は説

ど納得。午前のワークショップ終え昼食の待つ風と土の家へ。

(文責&撮影・若林二平)



現場は続く、屋根掛けのある炭焼き窯である(写真2)。昨年来地

域の古老・経験者中心で作

生、再生の会

が協働し完成した窯は3月16日夜に発生したマグニチュード7・4の福島県沖地震の際に崩落、しかし残った窯の奥に「炭」そのものを確認、試練を超える希望を垣間見た(写真3)。

炭焼き窯を後にした一行は丘を越え水田用水路の脇を抜けて

学び舎へ(写真4)。十時、東大大学院・内山健太郎さんから「完熟堆肥製造」に関する研究

得力がある(写真6)。

ここで東大大学院溝口勝教授が草刈りロボットを連れて登

場。東京からの遠隔ロボット操作に見事成功

(写真7)、しか

し溝口さん「ス

論文の講義を受け、滑牧場ブドウ畑隣接の堆肥製造現場へ(写真5)。堆肥を前に内山さんの説明は説

ど納得。午前のワークショップ終え昼食の待つ風と土の家へ。

(文責&撮影・若林二平)



論文の講義を受け、滑牧場ブドウ畑隣接の堆肥製造現場へ(写真5)。堆肥を前に内山さんの説明は説

ど納得。午前のワークショップ終え昼食の待つ風と土の家へ。

(文責&撮影・若林二平)

論文の講義を受け、滑牧場ブドウ畑隣接の堆肥製造現場へ(写真5)。堆肥を前に内山さんの説明は説

ど納得。午前のワークショップ終え昼食の待つ風と土の家へ。

(文責&撮影・若林二平)



現場は続く、屋根掛けのある炭焼き窯である(写真2)。昨年来地

域の古老・経験者中心で作

生、再生の会

が協働し完成した窯は3月16日夜に発生したマグニチュード7・4の福島県沖地震の際に崩落、しかし残った窯の奥に「炭」そのものを確認、試練を超える希望を垣間見た(写真3)。

炭焼き窯を後にした一行は丘を越え水田用水路の脇を抜けて

学び舎へ(写真4)。十時、東大大学院・内山健太郎さんから「完熟堆肥製造」に関する研究

得力がある(写真6)。

ふくしま

再生 短信

2022/3/26~27 里山再生活動体験同行記 第3回 (最終回)

里山に百年の計あり

2022年3月
27日午後、午
前の里山ハイキン
グ(前号記事で
紹介)の後は菅
野清さん(写真
1)の山へ。高さ
20メートルにも達
するアカマツの太木
の伐採は大
変危険な作
業である。
基幹林業作
業士の出番
である。初
めに木を倒
す方向に「受け口」
を作る(写真2)。次
に反対側に「追い
口」という切り込み
が入ると(写真3)、
伐倒が
始まる。
裁断が
進み見
事な年
輪が現
れ(写
真4)、記者が



四十年まで数えた
ところ田尾さん
「百年だ」。伐
採は里山の大き
な時間の流れを
見せてくれた。
伐採の後、学

標となる指標を提示。里
山内の作業・20キログ
ムの測定機材を担いで山
野を歩く人・データ解析
の応援(在宅可)求む!
講義のシメに登場した
のは「椎茸農家・妖精の
郷」の工藤義行さん
(写真6)。里山再生百
年二百年に生きる人、
勇気をいただきまし
た。講義終えて福島大
農林サークル代表・那
須琴美さん「放射能に
ついてさらに学びま
す」、東大むら塾飯館
班長・鎌倉啓伍さん
「放射能は
難しい、次
の取組みは
花です」、
若者たちの
前進は止ま
らない。前日26日に



び舎inoriに戻り高橋正二
さんの「里山林の放射能
の現状と課題」について
の講義(写真5)。佐須の
里山林の測定結果から薪
やキノコの原木を例に目

は、はからず
も時を同じく
して京都大学
生物圏情報学
教授大手信人



さん
が「風
と土
の家」
を訪れ
(写真
7)、
「森林
の価値とは; 森と生きるひ
とと社会の未来像」について
再生の会の会員とフリー
ディスカッションが行わ
れた。里山体験の最後に
小原壮二さん「多くの皆
さんの参加が大事」と結
んだ。
参加者全員で決意も新
たにパチリ(写真8)。
本ワークショップは地球環境
基金の助成を受けて開催されて
います。
(文責&撮影・若林一平)

